

一

問一 a 交遊 b 中腹 c 夢中 d 談笑

問二 1 イ 2 エ 3 ウ 4 カ 5 ク

問三 A かわいい孫の「かえちゃん」にまた会えたこと。

自分の死を悲しんだらう「かえちゃん」が元氣そうだったこと。

B がんばって小さくまるまることではあばたちのように小さくならうとしているのをじゃまされたこと。

じいじもあばも小さくなって遊んでいるのに、自分だけ大きいので仲間外れになったような気持ちになったこと。

問四 「かえちゃん」はばあばが突然いなくなったことに怒っているけれど、「ばあば」が突然死んだように「かえちゃん」もある日突然このよに生まれてきたのだということ。

問五 「かえちゃん」に直接聞かせる言葉ではなく、そつとつぶやく願ひであるため()付きとしている。小さくなるということは死ぬということだから、「かえちゃん」はこれからもつともつと成長して幸せな充実した人生を全うしてほしいと願う愛情あふれる思い。

二

問一 a 茶化す b 足 c 提起 d 訳知り

問二 個々人によって、甘いか酸っぱい、赤いか青いなど知覚していることが同じとは限らない。

問三 人の脳は世界をバーチャルに理解しているので、目の前にコップがあったとしてもその視覚と触覚自体がニセモノの情報かもしれず、コップがある、ということが現実のものかどうか疑わしくならざるを得ないという考え。

問四 軍事施設だけ正確に狙って撃つ多国籍軍のミサイル攻撃の映像によって無関係な民間人が血を流している現実を隠し、多国籍軍の強さと正しさのみを演出する作為的な意図。

問五 インターネットによりすべての人類が同じ情報を共有、立場や国の違いを超えて同じ問題に向き合う時代が来ると考えるその考え自体が、にせものの作られた考え方だということ。

問六 本来、情報は時間をかけて検証、淘汰されることによって真実に近づくものであるが、リアルタイムで瞬時に精度の低い情報を時には国家ぐるみで大量発信することで発信者の都合の良い方向に人々を誘導するだけでなく、人の、嘘でもいいから自分が見たいものが見たいという心理欲求が働くことによって、情報の拡散を加速するから。